



地域資源や地域特性を活かした特色のあるまちづくりを推進するため「地域の力(考え)で地域を育てる」地域まちづくりをすすめています。市内各地域のまちづくり活動団体によって取り組まれている地域まちづくりの活動を地まぢのチカラで情報発信します。

《鶴舞でランニング&乾杯!》 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会 地まぢ団体活動紹介

鶴舞・千種にて、ランニングしながらエリア各所に植えられたホップに水やりし、最後にビールで乾杯する「CAN RUN!」というイベントが行われました。天気は快晴。朝早くのスタートでしたが、走り終わる頃には皆汗びっしょり。ホップに水をやりながら浩養園へ到着したら、最後にビールやジュースで乾杯!様々な体験を通してまちを感じることができる、鶴舞・千種のことがもっと好きになれるようなイベントでした。



①準備運動
@イオンタウン千種
なごみの広場

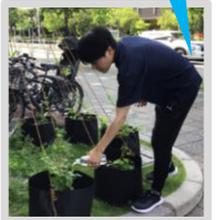


④ビール・ジュースで乾杯!@浩養園

②ランニング@メガロス千種~イオンタウン千種~鶴舞公園~名工大~浩養園



③ランニングしながらホップに水やり@エリア内各所



《有志で開催!猪子石学区夏まつり》 猪子石学区連絡協議会 地域の取組み

100号の地まぢチャレンジで取材した高井さんの工夫が詰まった、猪子石学区連絡協議会主催の夏まつり。無理のない継続的なお祭りを目指して、全て有志で開催しています。当日は開会前から、地域のみなさんで大賑わい。学区の屋台はチケット制。引換所を覗いてみると、なんとPayPayが使えます。

やぐらは約20年ぶりに復活。「やぐらを囲む子供たちの笑顔が見られて最高でした。」と話してくれた高井さん。他にも、企業協賛や地域の中高生の運営ボランティア、愛知東邦大学によるスポーツ体験ブースなど、地域の民間の力・若い力を借りることで、負担減でもパワーアップした夏祭りになりました!

屋台に加えてキッチンカーを招致することでさらに負担を軽減&わくわく感をアップ!物販は合計で20店舗が出店し、来場者数は2000人以上でした。



昨今、担い手不足が叫ばれる地域活動。一筋縄ではない難しい問題ですが、解決策の一つをこの夏祭りに見ることができました。



地まぢチャレンジ まちづくりを行う“人”にフィーチャーしたインタビュー



50人目 高本雅好さんご紹介
まるまる
〇〇建築ワークショップ
愛知産業大学
造形学部建築学科准教授
堀部 篤樹さん

堀部さんは、小中学校の改修、病院のプレイルーム整備、読み聞かせボランティアなど、子どもを中心として大変多岐に渡る活動をされている方。学生時代は歴史的建造物について学ばれていました。中でも紙コップを使いまちを作るワークショップは大変人気です。これまでの様々な経験を通して「自分がしたいのは建築家を育てることではなく、地域の全員にまちへの興味を持ってもらうことだ」と感じるようになりました。みんなが少しでもまちに興味を持てば「家の前をきれいにしよう」など小さくとも前向きな気持ちが生まれ、まちがきれいになっていくのでは、という想いがあります。さらに先述の子ども向けワークショップでは、紙コップの建物が繋がりにまちになっていく様子を見て「建築家は建築が中心にあるけれど、まちは建築の集合体で歴史の重なりなんだ」とも考えるようになったとのこと。もともとまちづくりとは新たなまちを作るイメージだったけれど、今は「まちはいろんな歴史を持っているものが一緒にあるのが面白い」と感じています。そういった想いもあり、古い建物をただ保存するのではなく、実際に使い育てていきたいという目標も。実は以前、我々名古屋都市センターの事業にも深く携わってくださっていた堀部さん。裏話盛りだくさんのとても楽しいお時間をありがとうございました!

Qまちづくりに取り組んできた中でうれしかったこと
Aいろいろな地域の財産(もの、ひと、こと)と繋がれたこと

Qこれから取り組みたいと考えていること
A子どもが「まち」や「まちづくり」を学ぶ体験型の教育活動

Q最後にひとこと
Aこれからも、たくさんの人と共働して楽しいことをやりたい

